

# イチゴの作業を楽に

## 要約

イチゴ栽培は中腰での収穫や管理作業など労働負荷が大きく、高齢化が進み栽培面積は減少している。新たな担い手を確保し定着を図るには、生産安定に加え省力化・軽作業化技術がかかせないと考える。そこで底面給水育苗と高設栽培により、育苗から本圃までイチゴ栽培全体の軽作業化技術を推進した。

## 現状(背景)と課題

- 高齢化、担い手不足による栽培面積の減少
- ポット育苗が増加しているが夏期毎日のかん水にかかる時間が長い
- 収穫や栽培管理の大半が中腰姿勢で足腰への負担大
- 新規参入者など新たな担い手の定着支援が必要

## 目標

- 底面給水育苗導入によるかん水作業の省力化
- 高設栽培導入による本圃作業の軽作業化推進
- 新規導入者の早期技術修得

## 活動内容

- 底面給水育苗技術の確立と普及（ポット育苗導入農家対象）  
→ 展示圃設置、現地検討会、講習会
- 高設栽培新規導入農家への重点技術指導  
→ 設備導入前の相談、高設栽培管理技術の個別現地指導、基礎的な栽培技術講習

## 成果

- 底面給水育苗導入 18戸、約17万ポット 夏期のかん水にかかる時間を大幅に削減
- 高設栽培導入 H26年、80戸、10.7ha  
H24~26年増加件数 19件、増加面積 約1.6ha
- イチゴ栽培全体に占める高設栽培面積の割合 約18%



写真1. 手かん水



写真2. 底面給水育苗

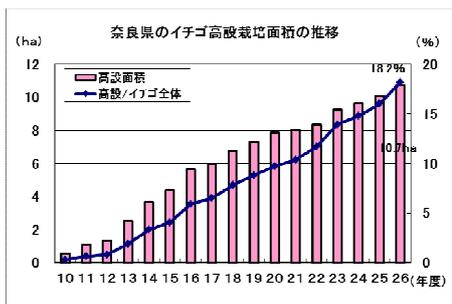


図1. 奈良県のイチゴ高設栽培面積の推移

年度	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26
新規就農	0	1	1	2	6	0	2	3	3	3	2	1	2	4	0	3	4
土耕栽培から	4	3	3	4	5	2	4	1	4	0	1	0	0	0	2	1	1
他品目から	0	1	0	3	0	1	0	0	1	0	4	1	0	2	0	0	0
増設	0	2	0	2	5	5	3	3	2	2	3	4	3	5	4	2	2
合計件数	4	7	4	11	16	8	9	7	10	5	10	6	5	11	6	6	7

表1. イチゴ高設栽培導入件数の内訳

農業研究開発センター 技術支援課  
 担当：野菜指導係 安藤正明・吉村あみ・西村憲三・  
 小島巳奈・堀川大輔

## 普及活動のポイント

- 展示圃で技術内容検討、現地検討会や講習会で普及推進
- 高設栽培の新規導入は導入前から相談を実施
- 新規導入者の早期技術習得に向け、栽培スケジュールや培養液管理等の栽培管理について重点的に現地指導を実施（月1～2回）
- 底面給水育苗と本圃の高設栽培を組み合わせイチゴ栽培全体の軽作業化を推進
- 生産者が求めている技術を確立し普及を図った

## 対象の変化

- ポット育苗で最も負担が大きいかん水作業を省力化することで、ポット育苗に取り組む生産者が増加している。規模拡大の阻害要因の一つが解消され、規模拡大を図る生産者も現れている。
- 毎日かん水に費やしていた労働時間を葉かき等の栽培管理や休息に使うことができる。

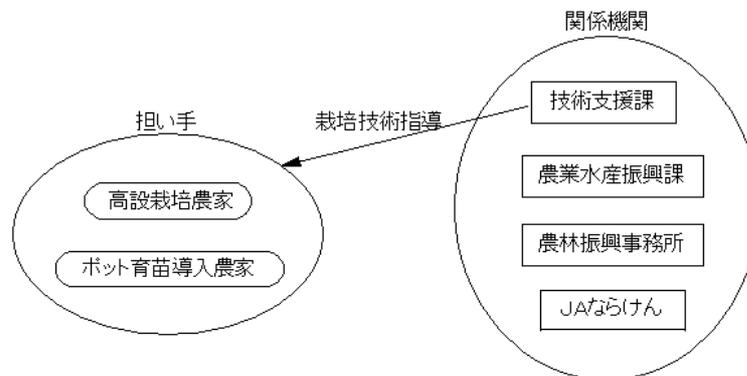
## 対象者からのコメント

- 夏期のかん水労力が大幅に削減されて身体が楽になった、以前の手かん水に戻ることにはできない。
- 高設栽培導入当初はいろいろと不安であったが、栽培管理や病害虫防除について普及指導員に相談することができて良かった。
- 経費面の課題はあるが高設栽培を導入して良かった。

## これからの活動ビジョン

- イチゴ栽培の軽作業化・省力化技術を推進し、担い手を確保する。
- 新規就農者の早期技術修得を図り、経営を安定させる。
- 新規就農者から地域のリーダーへステップアップを図る。

## 活動体制



## 用語解説

### 底面給水育苗

頭上からかん水するのではなく、ポットの下に敷いたマットにかん水し、ポットの底面から給水させる育苗方法。かん水チューブを設置しタイマー制御することで自動化することもできる。

### 高設栽培

作業しやすい高さの台を設置し、その上でイチゴを栽培する方法。土耕栽培の中腰姿勢を改善し、作業をしやすくするために開発された。導入には設備投資が必要だが、作業姿勢が改善され楽になる。